ふくろう新聞

＜発　行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町
中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551

今年ものこりわずかとなりました。ふくろうの郷では12月18日、中川原老人会のご支援で、しめ縄作り、餅つきをします。
みなさま風邪などひかれぬよう、そろって良い年をお迎え下さい。

安平小学校との交流会

11月25日に5名の入所者が安平小学校の生徒さんと交流をしてきました。
ふくろうの郷の入所者が、安平小学校を訪問するのは2回目です。

▲みんなでいっしょに記念撮影

はじめに、安平小学校6年生の教室に案内され、一緒に給食を食べました。
食事の後、クリスマスのイラストのちぎり絵を一緒に作り、完成品を入所者さんにプレゼントしてくださいました。
生徒さんは最初、緊張気味でしたが、「年は？」「好きな色は？」「誕生日は？」と覚えた手話や、絵、身振りで何とか伝えよう、話そうとされていました。
入所者も自分の事を身振りも交えながら話しておられました。
帰り際、車に乗り込んだ入所者を追って、車のドア付近に子供たちが群がり、口々に手話で「友達」「ありがとう」「また来てね」と何度も話しかけていた様子が印象的でした。
（介護：岩林）

▲給食を食べました

▲ちぎり絵をしました

▲初めてのランドセル

日本聾史学会の見学で入所者講演

11月2日から二日間にわたる「第11回日本聾史学会」のフィールドワークが、二日目の3日、淡路ふくろうの郷で行われ、50人を超える参加者が、入所者の語る人生から、ろう者の歴史について深めました。
ふくろうの郷からの発表は、山口頭蔵さんが、徴兵検査で「丁」とされて悔やんだ体験と平和について、勝楽進さん・佐代子さんご夫妻から、断種の体験と産めぬわが子への思いを込めた人形作り、魚住登喜男さんが、筋肉が衰えていく病気と淡路のろうあ者作業所・おのころに通所した体験、最後に、竹邊正晴さんが、50年間もの精神病院への隔離からふくろうの郷の開所によって生還できた体験を語られました。
それぞれ深い感銘を与えました。
（施設長：大矢）

▲　ご自分の体験を語る勝楽夫妻

みんないっしょにみかん狩り

11月11・13・23日に分けて、洲本市宇山にある平岡農園へみかん狩りに行ってきました。

あたり一面に黄色いみかんがいっぱい実を付けていました。

その光景に入所者さんもビックリされていた様子でした。

みなさん思い思いに自らみかんを取ってその場で食べて、おいしい、おいしいと満足そうでした。

▲みかんをとるのに一生懸命です。

自分でとることが難しい方は、職員にとってもらい食べていました。

みかんをそのまま食べることが難しい方は、職員がその場ですりつぶして、ジュースにして飲んでいただきました。

甘いみかんのあまりにものおいしさに、袋に入れて買って帰る入所者さんもたくさんいました。

自然の空気の中で自然の果実を食べるのは、食欲も増進し、入所者さんにとっても格別の思いだったのではないかと思います。

（介護：角村）

▲袋いっぱいのお土産です

▲もぎたてのみかんジュース

花・木ユニット外出～たこせんべいの里～

11月20日に花・木ユニットから9人の入所者さんが淡路市中田にある「たこせんべいの里」に行ってきました。

→おいしいせんべいをパリパリ

寒い中での外出でしたので、みなさんに楽しんでいただけるか心配でしたが、その心配もよそに、到着するやいなや、みなさんせんべいの試食に大忙しでした。

試食コーナーをぐるぐる回っては、「おいしい！おいしい！」と喜ばれていました。

試食をされた後は、買い物です。

みなさん気に入ったせんべいをたくさんかごに入れレジへと向いました。

なかには、持ちきれないほどのせんべいを買われて満足気な方もいらっしゃいました。

買い物を楽しまれたあとは、コーヒーやお茶を飲んで談笑されていました。

そんな楽しいひとときを過ごされました。

これからも入所者のみなさんに楽しんでいただける行事を企画していきたいと思います。

（介護：角村）

←袋いっぱいに購入されました。

▲コーヒーを飲んでほっと一息。・

研修報告

第８回21・老福連職員研究交流集会に、私は第４分科会の「ケアハウスのあり方を考える」に参加させて頂きました。

国は多様な住まいの構築をうたっており、軽費老人ホーム（食堂付きのＡ型・自炊のできるＢ型・介護付きのケアハウス）もそのひとつで、特に「ケアハウス」について、存在意義は何かを各施設が実践を持ち寄って討論しました。

印象に残ったのは、入居者の重度化への対応で意見が分かれたことです。

Ａ型・Ｂ型は加齢によって介護が必要になっても介護保険が利用できないために、介護保険が利用できる特定施設入居者生活介護として認可をとるケアハウスへの移行を進める施設もあれば、Ａ型・Ｂ型をそのままに介護が必要になったときには、老人ホームへ移ってもらう施設もあり、多様な意見が聞けて大変参考になりました。

（介護：三谷）

入所待機者について

淡路ふくろうの郷では、長期入所60床・短期入所10床となっており、聴覚障害者の方だけでなく、地域の方々にも広く利用していただいています。

入所相談を受ける中で、地域の方、島外、県外からも入所希望の問い合わせが増えてきています。

現在入所を希望される方が数十名おられますが、今後もふくろうの郷を必要としていただき、またそれに応えていけるよう努力していきたいと思います。

長期入所・短期入所等でお困りのことがございましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。

（相談員：荻野）

互助会便り

職員旅行で大阪のＵＳＪ（ユニバーサルスタジオジャパン）へ行ってきました。

家族で参加した職員もたくさんいて、計35名が参加しました。この日は楽しい夢のような一日を過ごしました。

←参加者全員で記念撮影

12月 おたん生日あめでとう

新居 花子 さん (89)
大正8年12月10日

高橋 美代子 さん (77)
昭和6年12月15日

中島 あい子 さん (83)
大正14年12月17日

中野 チサエ さん (80)
昭和3年12月29日

介護報酬の改定に思う

二〇〇〇年に介護保険制度がスタートし、以降３年に一度介護報酬の改定が行われてきましたが、03年、06年合わせるとマイナス4.7％もの改定でした。

その結果の必然として、介護現場の労働条件が低下し介護職員の離職率が年間４人に１人にものぼり、多くの介護施設では人手不足が生じるようになりました。

先日もテレビ番組で、お年寄りが好きで情熱的に働いていた若者が相次ぐ給料の切り下げでワーキングプアとなり、転職せざるを得ないという特集を放映していたのを見られた方もおられると思います。

福祉系の専門学校や大学に学生が集まりにくくなり、卒業生も介護現場に就職を希望する人が減少傾向にあります。

国内で介護職員が確保できない状況の中で、政府はとうとうフィリピンを始め外国人労働者の受入れを始めたのは、耳に新しいところです。

外国人を受け入れる前に、日本人が働きたくても働けない理由を改善することこそが根本問題だと考えられます。

国会でもこの問題が大きく取り上げられ、関係者によると全国的な運動が盛り上がる中で、政府はとうとう重い腰を上げ、09年の改定では約３％の改善方針が示されました。

これを淡路ふくろうの郷に当てはめて試算しますと、月約75万円の増収となります。

現行でも介護報酬の範囲では毎月80万円の赤字経営となっている当施設にとって、「焼け石に水」でしかない数字です。

介護労働者一人につき２万円の給与改善をと主張していた厚生労働大臣の意見はどうなったのでしょうか。

いまや、国民の20％（５人に１人）以上が65歳以上の高齢者が占める日本（二〇〇三〇年には30％を超える見込みです）で、いずれは全ての人が高齢期を迎える現実を踏まえ、高齢者が大切にされてこそ、国民全てが安心、安全に暮らせる社会と言えるのではないでしょうか。

その高齢者を支える介護現場に人が集まらないという政策の失敗を政府は率直に認め、あるべき本来の姿を求めるべきというのが、多くの国民の意見でしょう。

（事務長：八木）

ふくろう喫茶よりお知らせ

ふくろう喫茶でふくろうの郷の入所の方々と一緒に楽しい時間を過ごしませんか。

◆開催日時：1月25日(日)
13:00～15:00

メニュー

・コーヒー・ココア・紅茶・ホットカルピス
・たまねぎスープ　…１杯￥２００
・お菓子　…１個￥１００
【冬季限定】・生姜湯・あめゆ　…１杯￥１００
【1月のみ】・甘酒　…１杯￥２００

毎月１回開きますので、ぜひお越し下さい。
開催日は、２月８日(日)、３月22日(日)です。

※喫茶のボランティアを募集しています。
ご協力、お願い致します。　（介護：湯野）

ふくろう工房より

寒さにも負けず、ふくろう工房の仲間たちは、元気に作業に取り組んでいます。

さて、12月になり、あちこちで、イルミネーションが飾ってあり、クリスマス雰囲気が出てきていますね。ふくろう工房でも、クリスマスに向けて、リース作りを始めました。今までに作った数は数個ですが、アレンジをして工夫をしながら作るので、あっという間に売れてしまいます。

１個500円で販売しております。

みなさんお買い求めください。

（介護：湯野）

▲みごとなクリスマスリース